

— 現代に残る江戸の面影 —

唐津街道

を
探
る

かつての日本には、地方と江戸（東京都）をつなぐ多くの街道が通っていました。今回の新岡垣風土記では、岡垣町を通る「唐津街道」の歴史に迫ります。

日本全国をつないだ「街道」

江戸時代の初期に、各地方の大名（藩主）が地方から江戸に行く「参勤交代」のため、数多くの街道が全国に整備されました。街道といえば東海道などをはじめとする

「五街道」が有名ですが、九州にも長崎街道や薩摩街道

などの大きな街道が通っていました。

唐津街道も主要な街道の



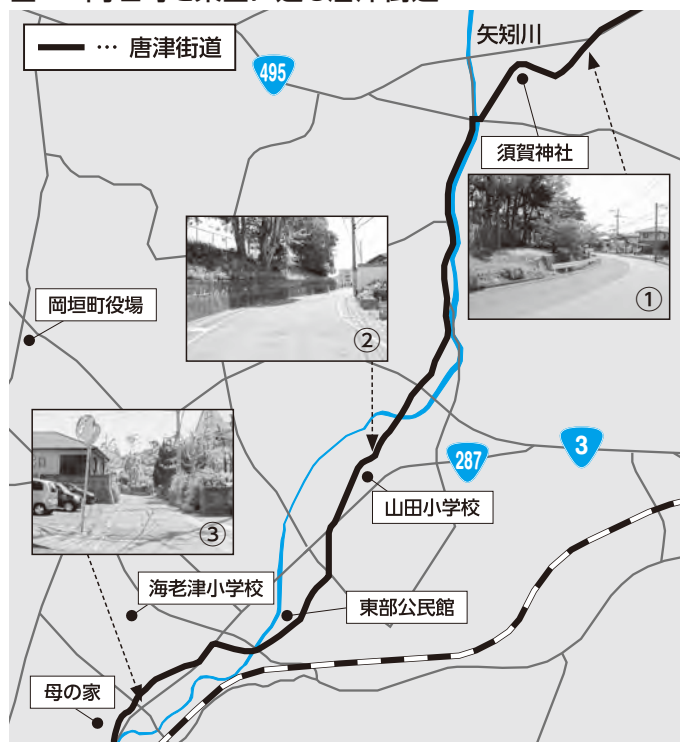
一つで、若松から芦屋・赤間・博多・今宿などを通り、唐津に至る街道です。福岡藩や唐津藩の参勤交代で使われていたほか、幕末は多くの武士が行き交っていました。

岡垣町内を通る唐津街道を
たどってみませんか

岡垣町内で唐津街道が通る部分は、赤間宿と芦屋宿の間に位置しています。町内には残念ながら宿場や一里塚などの史跡は残っていませんが、曲がりくねった道や道幅の狭さが当時の街道の面影を感じさせてくれます。

なお、町内を通る街道の大まかな道順は図1のとおりです。

図1 岡垣町を東西に通る唐津街道



芦屋から国道495号を経て糠塚へ⇒①須賀神社の北の旧道を進む⇒矢矧川西沿いを南に進み、山田へ⇒②山田小学校の西沿いを進む⇒JR海老津駅の下を西へ⇒県道287号を渡って西へ⇒③母の家の前を西へ⇒再度県道287号を西に進み、宗像市赤間方面へ

用語解説

- 参勤交代 … 各地方の大名が1年おきに江戸に勤める制度。大名の統制を目的に江戸幕府が定めた。
- 宿場 … 旅人の休息場所のほか物流の中継地点の役割を担う場所。街道の要所に設置された。
- 一里塚 … 主要な街道に1里（約4km）ごとに設置された塚（盛り土）。塚には松などの木や標識などがあり、旅人にとっての道しるべとなった。

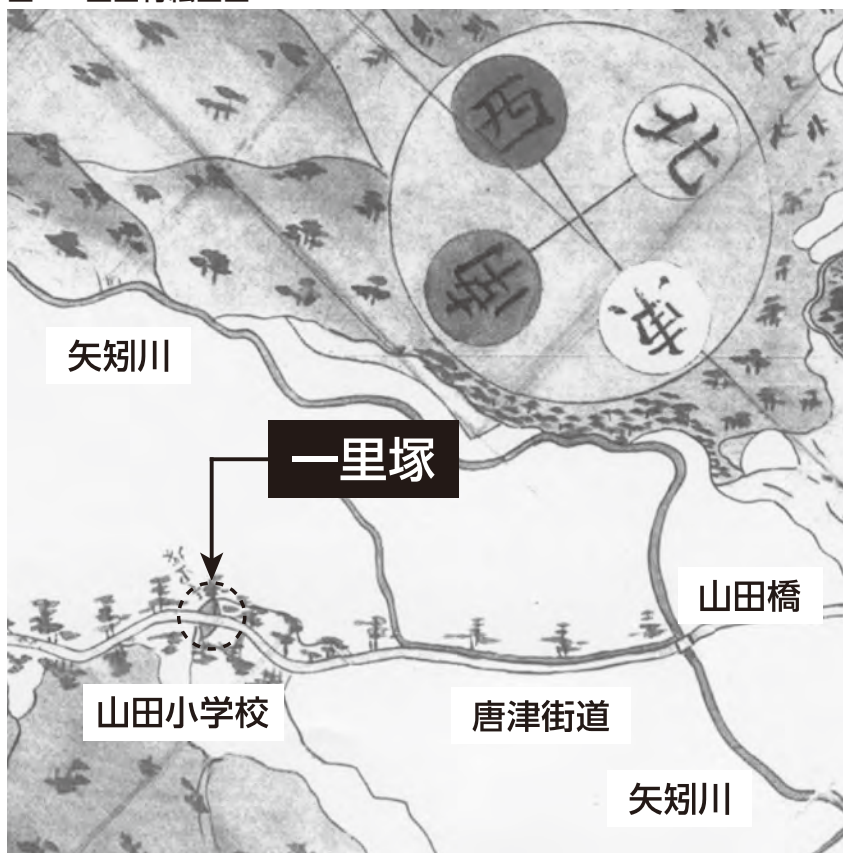


岡垣町の歴史遺産・唐津街道編

—山田の一里塚—

岡垣歴史文化研究会 羽山 健一

図2 山田村絵図面



天保元（1830）年ごろの「山田村絵図面」（図2）に、唐津街道の一里塚が描かれている。この一

里塚は、慶長10（1605）年ごろに築かれ、270年以上存在した。現在は所在不明である。

山田村絵図面ができる17年ほど前の文化10（1813）年10月5日、伊能忠敬は、城山峠から唐津街道沿いに芦屋まで測量している。それは、村絵図に描かれた景観の中を測量したということである。そこで、伊能忠敬の測量成果である「大日本沿海輿地全図」の赤間・芦屋間の測量路線を高精度に復元した。それが、図3に示す測量路線である。

この図によれば、伊能忠敬が見通しの悪い街道を避けて測量した様子が分かるであろう。問題は測点③である。測点③は、松並木と一里塚が在る中で、前後の測点が見通しできる位置でなければならぬ。それは、一里塚の上または近接した場所と思われる。山田の一里塚は、測点③及び現地の状況から、図に示す位置と推定した。この辺りに1辺5間（約9メートル）の方形の塚が道の両側に在り、その上に榎の大木が茂り、旅人に一時の安らぎを与えたと、想像されるのである。

図3 伊能忠敬の測量路線（地形図）

